



露地栽培ネギの連作障害を防ぐため、滝川市での研修時代にお世話になった農園から勧められたサツマイモを栽培したところ、甘味の強い紅はるかや安納芋の収穫に成功しました。しかし、そのまま市場へ出荷しても大量生産品に価格で

地元のケーキ店ではサツマイモが人気スイーツに



「クレールいとう」で人気の「さつまいもぱい」には紅はるかが1個あたり150gも含まれている

負けてしまおうと思索していたところ、八雲町本町で製菓店を営み農工商連携推進コーディネーターでもある「フレールいとう」の伊藤俊次さんと知り合い、紅はるかを活かしたスイーツとして商品化することにしました。

早速、「森岡さんちのさつまいも」のネーミングでパウンドケーキとして発売され、季節限定の人気商品となりました。今シーズンは、新商品「森岡さんちのさつまいもぱい」も発売となり、契約栽培作物としての目処がつかしました。



家族が増えて農業への熱意がさらに高まる森岡さんご夫婦

新規就農から程なく、町内の「北里大学八雲牧場」に勤務する愛さんと出会って結婚。2人の子どもにも恵まれ、家族が力を合わせて、八雲の地で夢の実現に向けた挑戦をしています。

新規就農から程なく、町内の「北里大学八雲牧場」に勤務する愛さんと出会って結婚。2人の子どもにも恵まれ、家族が力を合わせて、八雲の地で夢の実現に向けた挑戦をしています。

上の湯地区の先祖の土地は、「少しずつ時間をかけてファームステイができるスペースにしたい」と考え、農作業と並行しながら祖父の残した古民家をDIYで改装するなど準備を進めています。

農業体験や農泊で八雲町を盛り上げたい



長ネギは根を落としてキレイに整えて出荷

研修先の八雲町落部地区は高品質なブランド軟白ネギ「ユラップねぎ」の産地。大地さんは先輩農家さんから畑を借り、ネギの栽培からスタートしました。夏は長ネギ、冬はハウスで軟白ネギと、年間を通じて生産を行っています。ネギは収穫してから箱詰めまで、根切りや皮むきなどの手作業が多く、新規就農時に独身だった大地さんは、お姉さんに農作業を手伝ってもらいながら、農業を軌道に乗せてきました。

道南エリアで特産の長ネギ栽培からスタート



森岡農園(八雲町) 森岡大地さん



先祖の土地で何かしたい。元自衛官が夢のために選んだのは農業。



思い出の土地を活かすため自衛官から農家へ

元自衛官で函館市出身の森岡大地さんが、八雲町で新規就農したのは、2015年。八雲町上の湯地区に先祖の土地があったことから「いつかは、この土地で何かをしたい」と考えていたそうです。幼い頃、函館市内で飲食店を営む父親に連れられて、よく上の湯地区の山間にある祖父の畑へ遊びに来ていた大地さん。「本当は、周



取材時には研修旅行で訪れた中学生が農作業を体験

りの友だちのようにテレビゲームで遊びたかったんですけど、山遊びも楽しかったんですね」と、小さい頃から親しんだ土地への思いも就農への原動力になりました。自衛隊を23歳で退官し、滝川市の北海道立総合研究機構「花・野菜技術センター」で農業を学び、八雲町で農業研修を重ねた後、森岡農園を始めました。

